

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079500221
法人名	有限会社 元気の里
事業所名	グループホーム 元気の里
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡糸田町2495番地 (電話) 0947-26-1682

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年8月29日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成20年7月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	(光熱費) 10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,100円				

(4) 利用者の概要(7月26日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	糸田町立緑ヶ丘病院 / 上野病院 / 山下歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム元気の里は平成筑豊鉄道糸田駅より近郊の開静な住宅地に位置している。ホームの前は通学路となっているため、登下校の子供達に声かけを行っている。居間から見える広い田園地帯は季節感と清涼感を感じることができ、入居者は家庭的なゆったりとした雰囲気の中で、笑顔で暮らしを楽しんでいる。食に関しては、安全で美味しいものを基本的に食材は地元産で新鮮な野菜等を利用し、栄養バランスのとれた食事づくりにこだわっている。開設後4年が立ったが、入居者と家族との関係を大切に家族通信を送付したり、外食時に参加を呼びかけるなど、入居者と家族の関係づくりに努めている。今後は、家族との一泊旅行等も検討し、ホームが入居者と家族の関係を高め、ホームと家族が入居者を共に支えるケアを目指して取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、定期的な家族への連絡として便りや個別手順書等について指摘を受けたため、職員全員で話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価についての意義を理解し、自己評価に取り組んでいる。外部評価で指摘されたことは、職員会議で話し合い、改善に努めると共に、運営推進会議にも報告する予定である。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進委員は区長・民生委員・老人会長・地域の組長・行政の職員・入居者の家族で2ヶ月に1回定期的に開催している。会議内容は事業内容や外部評価の結果・現在、取り組んでいる内容等について報告を行っている。ホームでのサービスを理解していただき、意見交換を行うことがサービスの質の向上につながると考え、運営推進会議を開催している。グループホームについては、参加メンバーに理解を深めていただいたので、活発な意見交換の場となっている。会議で出された意見は職員会議で話し合い改善に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談窓口を設置しており、ホーム内に掲示している。家族からの意見や苦情があった場合は、職員会議で話し合い改善している。家族には毎月「家族通信」発行し、ホームでの様子を報告している。また、「家族通信」の空白の部分には、入居者の個別の状況を記載して送付している。運営推進会議には入居者家族が参加しており、会議では、家族の意見をより運営面に反映していくことができるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩の際は、ゴミ袋を持参しゴミ拾いをしたり、出会った人にはこちらから挨拶などの声かけを行っている。また、登下校の子供達にも声かけをしている。地域の行事には、できるだけ参加するようにしている。運営推進委員に区長・組長・老人会長・民生委員・老人会長が参加しているので、地域の情報を把握でき、地域との連携を高めるように努めている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「思いやりをもって笑顔で優しく声かけをします。安全で快適な環境づくりをします。地域との交流を大切にします。みんな仲良く楽しい一日にしましょう。」を理念に掲げ、地域との交流をふまえ、地域密着型サービスとしての役割を果たすことを理念に明示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示し周知徹底するようにしている。また、朝夕の申し送りの際には職員全員で理念を唱和し、唱和にとどまらないように理念の実践を目指して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員の協力を得て、地域の情報収集を行い、地域との連携に努めている。地域の行事・盆踊りや夕涼み会等に参加したり、登下校の子ども達への声かけ・散歩の際のゴミ拾い等、地域との関係づくりに取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果は、職員会議で話し合い改善に努め、運営推進会議にも報告し、外部評価を活かす取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業報告や地域との連携についての協力を依頼している。また、運営推進会議で出された意見は職員会議で話し合い、改善に努め、運営推進会議を運営面等で活かしていく取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	糸田町の老人福祉課には常に相談してサービスの質の向上に努めている。また、県広域連合指導部にも相談できる関係を築いている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護を利用している利用者はいないが、研修だけでは理解できない(行動に移すのが難しい)ので、機会あるごとに学習に努め、活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「家族通信」を毎月発行している。利用料は家族に持参していただき、入居者の様子を報告したり、意見を言ってもらえるように努めている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、ホーム内に掲示している。苦情や要望等は職員と話し合い、運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため異動はない。離職者もほとんどいないが、新しい職員には入居者との関係づくり等を考慮し、試用期間を設け、入居者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用については特に条件はない。入居者と職員の関係を配慮し、職員が生き生きと気持ちよく働ける環境づくりに努めている。職員のスキルアップを高め、自己実現を図るために、研修の充実など、職員の働き甲斐のある環境づくりが求められる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者を人生の先輩として、尊敬の念をもって接することができるように職員教育に努めている。人権に関しては「認知症の高齢者の人権を尊重する」ことを更に深く掘り下げ、日々のケアの中で、認知症高齢者のケアやサービスのあり方を追及してほしい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会Fブロックに加入し、定期的な研修を受ける機会の確保に努めているが、中々受けることが難しい状況にある。		グループホーム協議会の研修の機会を是非活かしていただき、参加できるように取り組んでいただきたい。また、研修の機会も外部研修のみではなく、内部研修の充実も今後、検討が望まれる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会Fブロックに所属し、勉強会や情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。また、町内のグループホーム4ヶ所での勉強会も検討している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	家庭での今までの生活を家族から聞き、家族に相談しながら、入居者が安心して生活ができるように環境づくりに努め、徐々に受け入れられるサービスから提供している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者は人生の先輩であり、一緒に生活しながら学ぶべきことは学び、意見の相違は話し合っただけで納得していただいている。時には怒ったり、怒られたり、入居者の思いや気持ちを自然に表現していただける関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を利用し、暮らし方の希望や把握に努めている。また、日頃の生活の中でも、気持ちや希望を把握できるように努め、これまでの暮らしの継続ができるように支援している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	家族の希望や入居者の意見や思いが反映されるように話し合い、介護計画を作成しているが、家族との話し合い・理解が得られていないケースもある。家族との介護計画の話し合い・理解に関して、再度確認してほしい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	介護計画は定期的に見直している。また、家族や医師とよく話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族の宿泊の受け入れや、家族が受診について行けない時の通院介助等の支援をしている。今後は、町内4ヶ所のグループホームとの連携が期待され、合同の行事やイベント開催など、多機能性を期待したい。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	家族の希望を十分に把握し、かかりつけ医の受診を基本に支援している。また、定期受診の他に往診に来てもらえる医療機関との関係も築いており、適切な医療を受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ケアマネージャーや看護師を中心に心安らかな終末を迎えていただきたと考えており、医療連携体制をとることにより、医師・家族と話し合い、重度化や終末期のあり方を検討していきたいと考えている。医療連携体制により、看取りに関する指針の整備が求められ、今後の検討を期待したい。</p>		<p>医療連携体制加算の算定要件である「重度化した場合における指針」は、看取りに関する考え方・本人及び家族との話し合いや意思確認の方法等の看取りに関する指針を定めることが求められており、今後の検討において整備が求められる。</p>
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に心がけている。また、記録についても保管・管理を含め配慮するようにしている。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に入居者が主人公という暮らしを中心に入居者の体調や気持ちを尊重し、入居者一人ひとりの気持ちや意向にそった暮らしを支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下などや便秘・下痢などの健康状態に合わせた調理を行っている。職員と入居者は同じテーブルを囲み雑談等を楽しみながら楽しい雰囲気の中で食事を取っている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴したい日、希望する時間に入浴できるように配慮している。お湯の温度も希望に合わせて、くつろいで楽しく入浴できるように配慮している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	洗濯物たたみや季節毎の梅干作りなど入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、テレビや本など入居者の好みに合わせて利用できるように配慮している。また、今年こそ温泉一泊旅行を家族と共に楽しめるように検討している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩を毎日の日課にしている。病院受診時にはドライブを兼ねたり、誕生日には家族と一緒に外食を楽しむ機会も作っている。季節を感じていただけるように花見なども季節に応じて行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	入居者の様子に目配りをしながら、玄関の鍵をかけない、自由な暮らしを支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、消防署の指導のもとに、運営推進会議の委員、近隣の方々に参加していただき、入居者・職員全員で防災訓練を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取量や水分量を把握している。特に水分の確保は、いろいろ工夫している。献立については、管理栄養士にアドバイスをいただき、栄養バランスが取れた食事が提供できるように支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間からは田園風景を見渡すことができ、気持ちが和む雰囲気がある。壁には季節ごとに絵や写真を掲示したり、生花があちらこちらに生けてあり、家庭的な環境の中で居心地良く過ごせるように工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には仏壇やタンス等の使い慣れた家具を自由に持参してもらっている。孫などの家族写真や使い慣れた日用品などを飾り、入居者のこれまでの暮らしが継続できるように配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			